

## 平成 27 年度第 3 回宇土市庁舎建設検討委員会 質疑応答

### ① 基本理念・方針及び新庁舎の機能について

質疑なし

### ② 新庁舎の規模について

(A委員)

宇土市庁舎建設基本構想(案)についての再確認ですが、前回新庁舎の規模は1万㎡と出されていましたが、それは母屋の延床面積として考えているのか。もしくは、来庁される市民などの駐車場スペースも含めてなのか？また、今回意見があった新庁舎の規模が12,000㎡とは、複合施設として別棟などで建設した場合も含めた12,000㎡ということでしょうか。

(事務局)

宇土市庁舎建設基本構想(案)の中で、1万㎡と記載があるのは母屋のみの延床面積ということになります。今回示されています新庁舎の規模が12,000㎡とは、委員の方から複合施設として考えた場合、12,000㎡は必要という意見がありましたので、ここに記載していません。

今後、新庁舎の規模を積算する考え方としては、今後の全体的なまちづくりをどのように行っていくのかを考える必要があると思います。それを考えるうえで、事前に市民の方々の意見を聞くなどし、市民スペースが必要であればその部分も含めるなど、新庁舎の規模として積算していきたいと考えています。

(B委員)

来庁される市民などの駐車場の場合、屋根がかかっていないのが一般的です。屋根がない駐車場と複合施設などを一緒に含めて建設費の積算を行うと、大きく値段が上がってくる。通常延床面積としての考え方としては、屋根のかかっている部分を延床面積とするとと思いますが、今回の場合はどちらなのでしょう。

(事務局)

まず、複合施設にするか、そうした場合、行政機能と分けて別棟で建設するのかなど、まだ、決定したことはありません。宇土市庁舎建設基本構想(案)の中では、類似自治体を参考に、1万㎡という規模で算出しています。

第2回検討委員会の後に文書にて、委員の方々に意見をいただきました。今回記載があります新庁舎の規模が12,000㎡という数字は、その中から出た意見で、委員長から発言が

ありました通り、屋根がかかっていない駐車場の部分は含まず、庁舎の母屋部分の面積ということになります。

(B委員)

屋根がついていない駐車場とは別に、公用車などの車庫にする場合は屋根が付いていますので、規模を算出する場合の延床面積に含まれると思われます。

また、今後どの場所に建設するかなど計画していく中で、土地の面積が狭い場合などは立体駐車場にするという話になると思われます。ただ、今回の答申の中では、そこまで詳しく示す必要はないと思われますがいかがでしょうか。

(委員一同)

委員一同賛同

(事務局)

新庁舎規模の積算については、他の自治体でも屋根がない駐車場部分までは含まれて積算されていません。宇土市庁舎建設基本構想(案)も同様の考え方で規模を算出し記載しております。

### ③新庁舎位置及び公共施設再利用について

(B委員)

新庁舎の位置を考える際には、まちの将来の姿をどう考えるのかという議論が核心になると思います。

(C委員)

市の西部の方は高齢化が進んでいます。市庁舎が現在の位置よりも東の方に移れば、庁舎に向くのが困難になります。一番いいと思うのは、現庁舎位置付近で、利便性を高めるような都市計画を考えていくことだと思います。都市計画を考える上では、道路を造り変えるなど難しいと思いますが、結論としては今の場所付近に建設する方が良いと思います。

(B委員)

只今のご意見は、高齢化、財政面を考えると、現庁舎付近で建設する方が良いのではないかと思います。その他にも、庁舎建設位置については、いろんな考えがあると思いますので、再度確認をしまして、次の議論に進みたいと思いますので、今回も委員の皆様からの意見をお願いします。

(D委員)

商工会会長の意見としてあげれば、本町通りの再構築も図りたいと考えています。ここ数年、これまで店を経営されていた方が、店のあった場所に自宅を建てるという傾向が広がっています。商店街では、一度お店を閉めて住宅になってしまうと、商店街という概念がなくなってしまいます。

これまでの意見を覆すかもしれませんが、市庁舎が移動すれば、そこが中心になってまちができます。

例えば、花園地区の三日から網田地区の戸口まで考えた時、地形としての中心はどこかという網津地区の住吉辺りになると思われます。しかし、新庁舎を網津地区の住吉付近まで移動させてしまいますと、先程から意見が出たように、過疎化が進んでいますので、50年先を考えた時、どのくらいの人口密度があるのかが心配になります。移動すると仮定した時に、緑川地区の新開や笹原付近であれば、高規格道路の開通も計画がありますし、建設するための土地の買収費用も、それほど負担がないのではと思います。今後、市民の方々を巻き込んで話をされる中での一つの案として考えてもらいたい。

(E委員)

建設位置が一番重要になると思います。

市議会の中でも、議員の方々から様々な意見が出ています。

この委員会の中で、新庁舎の位置を決定する事は、なかなか難しいと思います。新庁舎の位置については、場所を決めるような決定論ではなく、もっとフラットに様々な意見を出したい。

(A委員)

市の歴史的背景から考えると、約800年前から中心部がどんどん東側に移動してきているのは事実です。しかし、ここ70年間くらいは、現庁舎付近が中心部となっています。庁舎を移動させた場合、現庁舎付近が空洞化することが一番心配です。これは現在の庁舎付近の住民の方々が住宅街としての認識を持っていただければ、仮に本庁舎が郊外に移動しても問題はないと思います。ただ、それには庁舎が移動したことに対する懸念を、どのようにして市民の方に理解・納得してもらうのか。移動する場合には、まずは合意形成することが必要になってくると思います。

また、別の観点から見ますと、熊本県内の人にも宇土というまちはあまり知られていないと思います。ということもあり、庁舎を3号線、57号線沿いに移動させ新しいまちが形成できれば、宇土を知ってもらえる可能性はあると思います。ただ、既存のまちを大幅に変えるという決断は相当な苦労が必要だと思います。

位置の選定については、今後もいろんな考え、発想で検討していかないといけないと思います。

(F 委員)

建設位置に関しては、E 委員の言われたとおりまだ特定しない方が良いと思います。防災的な視点で考えると、まちの中心地が緑川地区の新開の辺りに移動した場合、宇土市内全地域に同じくらいの時間で出動することが可能になるので良いかとは思いますが、位置に関しては、市民全体で考えた方が良いのではないかと思います。

(B 委員)

これからは、成熟社会に向かっていくと思いますが、その時に大事なことは、そのまちが育ってきた歴史的な背景だと思います。

例えば、最近では、新しいお店が郊外に、たくさん建っていますが、日本中に建っているチェーン系のお店などが、仮に増えたとしても、それは日本中のどこでも同じ店が建っているという事なので、地元のまちの人にしてみれば、新たに雇用は増えるかもしれませんが、自分のまちに対する誇りや自信につながるのかという疑問があります。

それよりも、地域の先人達を作ってきたまちなどは、お金ではなく、時間でしか作るこのできないものです。これこそが、このまちに住む誇りにつながると思います。

商店街に新しいお店を作るにしても、外から大きな店を作ってもらおうということではなく、小さくてもまちの人が自分で一つひとつ、お店が増えていく方が、自信につながるのではないかと思います。

そのように変化があったまちを私自身が経験しています。

あるまちを例として紹介しますと、「どうせ自分のまちに住んでいても、良いところもない」と言われていた人が、自分達の手で、お店を増やしていき、まちが再生したという地域があります。実際その人達自らが携わり、まちを再生させることで、その人達からは、「自分のまちは何もない」という言葉が出てこなくなりました。

それこそが、とても大事だと私は思います。

新庁舎の位置についても、宇土がこれまで持っているものをいかに露出していくという観点が重要になってくると思います。

市外の人が宇土を見た時に、船場川の石垣などが最初に目に入ります。このような歴史のある場所を考えながら、今後のまちづくりをしていくべきだと思います。

(D 委員)

明日 23 日には商店街活性化委員会が 100 円祭というイベントを行います。なぜ行うかという、新しく転入されてきた人などに商店街を知ってもらう為に行っています。そのような取り組みを行ってきても商店街のお店が閉まっています。また、お店の後継者もいない、というような状況を目の当たりにしています。

これらは今後 10 年で、どうこうできる問題ではないと思います。これから 30 年 40 年かけて考えていくときに商工会としては、大きな起爆剤となるような物がなければ、今の商

店街を再構築することは厳しいと考えています。

庁舎建設に関しては、30年40年先を見据えて考えると、位置については、やはりもっと議論が必要なのかと思います。

(E委員)

確かに位置については歴史的な部分からも考える必要があると思いますが、宇土市は7地区のまちが合併して市として誕生しています。

私は宇土地区ではありません。例えば、網田地区の人にとっては、現庁舎付近に建設するもしないも特段関係のないことだと思います。

網田地区には支所がありますから、本庁舎までに行かれるのは自家用車などをお持ちの方で、お年寄りなどは網田支所で用件は済まされます。これについては、網津地区も同様だと思います。そのようなことから、建設位置については網津・網田地区にお住いの方にとっては、あまり重要ではないと思います。

しかしながら、建設位置については広く意見を吸い上げるなど、もっと議論の場を広げて決めるべきだと思います。

委員長が言われるように、これから大きく人口が増えるということはないと思います。市庁舎を建設したら50年間は移動しないわけですので、庁舎を建設する位置が一番大事になると思います。そのような事もあり、今後は市民を巻き込みながら検討する必要があると思います。その中で、最終的に現庁舎付近が良いとなればそれで良いと思います。

この3回の検討委員会の会議の中で建設位置を決めるのは、至難の業だと感じます。

(B委員)

建設位置の議論を、今後どのようにして正確に市民に周知し、その中で意見を聴取させるのが難しいと思います。この議論そのものを基本構想の中で再度検討していくという形でもよろしいでしょうか。

(委員一同)

委員一同賛同

#### ④新庁舎スケジュールについて

(C委員)

建設費に関しては、資材高騰等いろいろありますが、建設する場所によっては、埋め立てや用地買収等が発生します。

そのような事もあり、スケジュールは流動的になると思うので、結局は今示されているスケジュールよりずっと長くなると思います。

(D委員)

委員長は、学識経験者として、この規模の建設物の場合どのくらいのスケジュールで考えていけば良いのでしょうか？参考までにご意見をお願いします。

(B委員)

やはり、東京オリンピック前に建設するというは無理があると思います。

一方で、耐震問題を考えると少しでも早くというのはわかりますが、現在の状況は建設工事する時の作業員がいない。余裕をもって建設したほうが良いと思います。

(D委員)

物理的に今のスケジュール感では難しいと思います。耐震問題もあり、できるだけ早く建設しなといけません、タイムスケジュール的に今の案では不足しているのではないのでしょうか。

(A委員)

無理して早く建設を進めるのはいけないと思いますが、最低限守らなければいけないスケジュールも当然あると思います。ただ、現庁舎の耐震基準が一番心配です。

無理のない建設計画スケジュールの中で、実際どれくらいかかるのかを再度算出した上で、次の判断をするべきだと思います。

全体の経費が先にあって建設スケジュールをそれに合わせるのではなく、最低決まっているスケジュールを決めて経費を考えて建設着工という順序で考えていくべきだと思います。

(E委員)

宇土市庁舎建設基本構想（案）に示されているスケジュール案の通りには、なかなかスムーズには進まないと思います。新庁舎建設の検討は、ほかの自治体の場合もスケジュールが後ろ倒しになっていく事が多いと思います。今後も焦らず余裕を持って検討していく方が良い庁舎ができると思います。

(D委員)

建設費に関しては、国や県の補助金等はないということでしょうか？

(事務局)

庁舎建設に対しての補助金はありませんが、例えば、木造の庁舎と仮定したときに、県産材を使用する場合には補助がありますが、建物の構造上の条件があることのほか、建設費自体がコスト高になってしまう場合もあります。

今後は、財政負担の部分を見極めながら、活用できる財源などについて検討していきたいと思います。

庁舎を建て替える際の財政措置については、これからも市長会を通じて国の方に要望を行っていきます。

(B委員)

余裕を持ってという意見が多いようですが、答申の文言はこのままの記載でよろしいでしょうか？両方の意見を兼ねているので問題ないとは思いますが。

(委員一同)

委員一同賛同

(2) その他

質疑なし